

大阪市工業用水道特定運営事業等 モニタリング報告書（令和6年度）【概要版】

本資料は、令和6年度に市が運営権者に対して実施してきた業務モニタリングと経営モニタリングの結果をまとめ、公表するものである。なお、業務モニタリングは、「要求水準上、実施すべき取組」と「より良い事業運営に向けた取組」の2つの観点で評価する。また、令和6年度は第1期中期事業期間(R4～R6)の最終年度でもあるため、その結果についてもとりまとめている。

1 業務モニタリング（要求水準上、実施すべき取組）

■モニタリング結果(R6)

業務モニタリング	業務数	◎	○	△	－	(件) 要求水準未達
総務・CS部門	19	18		1		0
浄水部門	7	5	2			0
給配水部門	6	4		1	1	0
計画・設計部門	8		6	2		1
計	40	27	8	4	1	1

■モニタリング結果(第1期中期事業期間)

年度	◎	○	△	－	(件) 要求水準未達
R4	29	5	2	4	0
R5	32	4	1	3	2
R6	27	8	4	1	1

【凡例】

- ◎＝要求水準未達や課題等がなく順調に進捗
- ＝要求水準未達や課題等があったが現在は解消され、順調に進捗
- △＝課題等があり、現在解消に向けて対応中（解消後は○に移行）
- －＝該当なし

【3か年総評】
大半が◎や○の評価で順調に進捗

【要求水準未達】
すべて是正済

■R6要求水準未達事象「設計図書等未承認工事の実施」

- ・敷地内での給水管新設工事に先立ち、設計図面や数量計算書等の設計図書等について市の承認を受ける必要があるが、その手続きが完了していない状態で工事を実施した。
- ・利用者や市民等に直接影響を及ぼさないものであり、すでに是正措置が取られている。

評価

第1期を通じて

概ね事業計画に基づき適正に実施

2 業務モニタリング（より良い事業運営に向けた取組）

本事業の運営上の基本方針として、最も重要としている「収益性向上」「状態監視保全」「運営体制構築」を実現するための第1期中期事業期間の取組について評価した。

【第1期アウトカム】着実に業務を遂行できる体制づくりと、立案した戦略のスピーディな実行



収益性向上

新たなお客さまサービスや収益性の向上のために以下の取組を行った。

- ・経済産業省の認可を受け、新たな料金プランの実施
- ・新規開始支援策(工事費用支援サービス、工事費用分割払いサービス)の導入
- ・プッシュ型の営業戦略の実施など

今後は、これまでの取組の効果を分析しつつ、さらなる収益基盤の強化策について検討・導入を進めていくこととしている。



状態監視保全

安定給水の確保や投資水準の抑制・効率化のために以下の取組を行った。

- ・管路の重点監視路線に漏水音センサを設置し、監視体制を構築
- ・管路の漏水リスクを可視化するAI技術や、センサによる設備故障の予兆の検知技術等、先進的なインフラメンテナンス技術の導入など

今後は、各種の要素技術を組み合わせ、漏水検知・予防保全業務を効率的・効果的に行うための運用フローを構築すること等により、工業用水道施設の状態監視保全の充実を図っていくこととしている。



運営体制構築

効率的かつ柔軟で透明性の高い運営体制の確立のために以下の取組を行った。

- ・取締役会、監査役、会計監査人によるガバナンス体制の構築・運用
- ・委託先・請負先との協業体制の構築や人材育成の取組、業務プロセスの標準化による業務執行体制の整備
- ・「大阪工水アクセラートフィールド※」による新技術の開発や実証など

今後は、これまでの成果と要求水準未達が発生した状況を踏まえ、より強固で持続可能な運営体制の構築を目指すこととしている。

※ 本事業の運営施設を実証実験の場としてベンチャー企業や大学、株主企業などに提供し、新技術の共同開発や実証を行う仕組み。

評価

第1期を通じて

アウトカムを達成

3 経営モニタリング

■収支実績(R6)

(単位：百万円)

項目	①R6計画	②R6実績	③差引 (②-①)	④増減率 (③/①×100)
経常収益	1,695	1,536	-158	-9.3%
営業収益	1,695	1,536	-158	-9.3%
うち給水料	1,320	1,318	-2	-0.1%
営業外収益	0	0	0	－
経常費用	1,608	1,420	-187	-11.7%
営業費用	1,375	1,164	-211	-15.4%
販売費及び一般管理費	221	244	23	10.6%
営業外費用	12	12	0	－
経常損益	87	116	29	33.5%
特別損益	0	0	0	－
税引前当期純損益	87	116	29	33.5%
税金費用	29	44	14	48.5%
当期純損益	57	72	15	25.7%

【給水料】

年度前半は使用量が前年度と比較し増加傾向であったが、後半は製造業全体の活動縮小などにより減少。ほぼ計画並みとなった。

【営業費用】

管路の緊急修繕費用や保守点検費などが計画を下回ったため減少。

【経常損益】

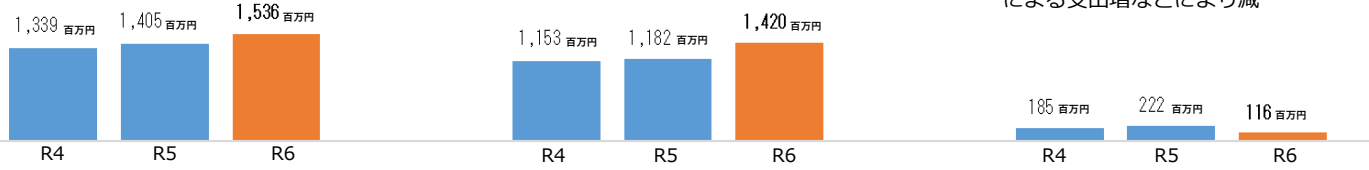
計画を上回る経常利益額を確保している。

■収支実績推移(第1期中期事業期間)

経常収益 1,536百万円 (前年度比増 +9.3%)
給水工事収益の増

経常費用 1,420百万円 (前年度比増 +20.1%)
給水工事費用の増、人員体制の強化による増

経常損益 116百万円 (前年度比減 △47.8%)
人員体制の強化や状態監視保全体制の強化による支出増などにより減



評価

第1期を通じて

大きな問題は見られず堅調

4 有識者会議の講評

客観的かつ専門的な知見に基づき、意見または助言を求めるため、「大阪市工業用水道施設運営事業有識者会議」を開催し、市によるモニタリング結果に対して、次のとおり講評を受けた。

■全体

- ・本事業は、運営権者によって事業計画に基づき概ね適正に実施されている。
- ・市の実施したモニタリングも適切であったと評価できる。
- ・今後も運営権者と積極的なコミュニケーションを図り、引き続き、本事業の着実かつ円滑な実施に向けて取り組まれない。

■要求水準上、実施すべき取組

- ・計画・設計部門の業務が本格化している中で、運営権者が人員体制の強化を行ったことは良い取り組みであった。
- ・今後管路工事が本格化するにあたり、本事業に重大な影響を与える事項については、特に注視してモニタリングを行なわれたい。
- ・要求水準未達事象が1件確認され、是正措置がすでに行われているが、引き続き実施状況を重点的に確認するなど、運営権者へのモニタリングを通じて再発防止に取り組まれない。
- ・評価基準について、要求水準未達や課題等がなく順調に進捗した場合に「◎」としているが、一般的には目標を上回る実績であったという印象を与える。目標を達成したという実績であれば「○」とし、目標を上回る場合に「◎」の評価を行うなど、次期に向けて評価基準について工夫されたい。

■より良い事業運営に向けた取組

- ・本事業で実施している「大阪工水アクセラートフィールド」について、これまでは漏水リスク評価など、実績データを用いた研究が行われているが、実フィールド（現場）を用いた研究も含め、次の世代の技術に繋がるような活動を期待している。